

令和元年度 第2回葉山町環境審議会議事録

日時：令和2年1月16日（木）14時00分～16時00分

場所：葉山町役場庁舎3階 議会協議会室1

出席者

（会長）原科 幸彦

（副会長）加藤 清

（委員）錦澤 滋雄、石井 春夫、三井 修、内山 和子、角田 正美、

※相馬 立夫 欠席

（事務局）高階 歩、高梨 敦、雨宮 健治、小野 卓矢

審議事項

- （1）会長及び副会長の選任について
- （2）葉山町環境基本計画の改定について
- （3）その他

高梨環境課長

これより、令和元年度第2回環境審議会を開催させていただきます。委員の皆様には、ご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。今回の審議会は本年度2回目となりますが、昨年7月に委員の改選がございましたので、改選後初めての審議会となります。

それでは、開催に先立ちまして、山梨町長より挨拶申し上げます。

山梨町長

皆様こんにちは。年末よりだいぶ暖かく、「穏やかな気候でいいですね」という意見を聞くたびに暖冬なのだなと感じております。私などは「地球温暖化なのではないか」とドキドキしてしまいます。本日は漁港の組合長にも来ていただいておりますが水温も16～17度ほどあり、今年はわかめが相当厳しいだろうという声もあります。実は今年だけではなく、昨年一昨年もずっと厳しかったようです。海洋環境の変化を如実に感じられていると思います。皆様が現場で活動されるなかで、そのような危機意識をお持ちなのではと思います。

葉山町は、昨年10月より「プラスチックフリー」の動きをとり始めまして、公共施設内ではペットボトルの販売は一切しておりません。小さな自治体ですが、出来ることからということで取り組みを始めました。職員については、レジ袋の持ち込み禁止など、表面的に取れるかもしれませんが、それを一つの切口として、私たちから声を出していこうという覚悟を持って臨んでおります。環境の町と自他共に認められるようにしていきたいと思っております。その中で、今回は環境基本計画の改定ということで、町の取り組みとしてはいくつ

か今の手直し要素的なことが多いと思いますが、改めてまた新しいことをどんどん論議していかなければと思っております。皆様方からしっかり実行性のある計画にして、それをしっかり行動に変えていけるような落とし込みを我々もしていかなければと思っております。危機迫った環境という点から我々自治体が何が出来るかという視点でご協力いただければ大変幸いです。では、審議に大変お時間がかかるとは思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

高梨環境課長

ありがとうございます。失礼させていただきまして着座にて進行させていただきます。先ほど少し触れさせていただきましたが、委員の改選後初めての審議会となります。初対面の方もおられますので、原科様から順番に自己紹介をお願い致します。

原科委員

千葉商科大学で環境政策・計画の研究をやっております。この審議会とも長い付き合いで5期目ほどになります。よろしくお願い致します。

錦澤委員

東京工業大学で、環境政策・研究、主に環境アセスメントを専門に研究と教育をしております。よろしくお願い致します。

内山委員

神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター環境部長をしております、内山でございます。昨年度は台風の被害が多く、葉山町様もかなり甚大な被害があったと思います。こういう台風が続いていくのかと私どもも危機感を持っている状況でございます。よろしくお願い致します。

加藤委員

私は長年葉山に住んでいるので選ばれたのだらうと思っております。環境についても皆様にお力添えできることが無いかもしれませんがよろしくお願い致します。

三井委員

二子山山系自然保護協議会の委員をしておりますので、今回参加させていただければと思っております。よろしくお願い致します。

石井委員

よこすか葉山農業協同組合の理事をやっているところからこちらの会に出るようになった

と思います。今は葉山野菜の会の会長もしております。よろしくお願い致します。

角田委員

葉山町漁業協同組合の組合長の角田正美と申します。この会でなぜ選ばれたのかと不安なのですが、先ほど町長が言われましたとおり、海水の温度が高くて今年はわかめはおそらくダメだろうと。そのような状況で、環境問題には非常に興味がありますので、よろしくお願い致します。

高梨環境課長

ありがとうございました。あとお一方、建築建設事務所代表で相馬様が委員となっておりますが、本日は欠席の連絡を受けております。引き続きまして、環境審議会の事務局をさせていただきます。町職員の紹介をさせていただきます。

高階環境部長

環境部長を務めております、高階と申します。日頃からお世話になっております。どうぞよろしくお願い致します。

高梨環境課長

先程から進行させていただいております、環境課長の高梨と申します。どうぞよろしくお願い致します。

雨宮課長補佐

環境課の雨宮です。よろしくお願い致します。

小野主任

環境課主任の小野と申します。よろしくお願い致します。

高梨環境課長

まずそれでは報告事項といたしまして、本日の会議の成立についてです。本日の出席委員は8名中7名です。よって出席委員数は過半数に達していますので、環境審議会規則第5条第2項の規定により、会議は成立となります。続きまして本日配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。

配布資料

1. 本日の次第・審議会委員名簿・諮問書
2. 資料① スケジュール
3. 資料② 環境基本計画の改定について
4. 参考① 葉山の環境
5. 参考② 葉山町環境基本計画（改定版）
6. 参考③ 京都市環境基本計画
7. 葉山町環境審議会規則・審議会委員会等の会議の公開に関する指針
8. 情報提供 原科会長より千葉商科大学 「地球温暖化防止活動について」・「SDGs 行動憲章」

高梨環境課長

それでは、会議に入らせていただきます。通常会議は会長の進行により行われますが、委員の改選後初めての審議会となりますので、会長が決まるまで事務局が進行させていただきます。それでは正副会長の互選をおこないたいと思います。お配りした資料に葉山町環境審議会規則がございます。この中で第4条第1項に審議会に会長及び副会長を各1名置く規定されており、第2項では委員の皆様の互選により定めるとされております。自薦他薦かまいません。何かご意見ございませんでしょうか。

錦澤委員

前体制と同様に、会長原科先生、副会長を加藤様にお願いできればとご提案させていただきます。

高梨環境課長

ありがとうございます。ただいま前回に引続きというご意見がありました。事務局といたしましても、議事進行を考えた場合、そのようにお願いできればと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。

各委員

異議なし。

高梨環境課長

それでは会長に原科委員、副会長に加藤委員とさせていただきます。それではお二方には会長・副会長席への移動をお願いいたします。

あと2点ほど、皆様にお謀りしたいことがございます。1点目は、当審議会の公開・非公開についてでございます。こちらにつきましては、審議会委員会等の会議の公開の指針をお

配りした資料がございます。この中で第3条に、「審議会等の会議は原則として公開とする」と規定されており、第4条には「審議会等の公開・または非公開の決定は審議会の長が当該審議会に諮って決める」となっております。早速恐縮ではございますが、原科会長から委員の皆様へ公開・非公開について諮っていただくようお願い致します。

原科会長

それでは早速ですが、公開でよろしいでしょうか。

各委員

異議なし。

高梨環境課長

ありがとうございます。2点目につきましては議事録の公開についてです。議事録については審議会終了後に事務局で作成させていただきますが、作成した議事録を公開していいかお諮りしていただければと思います。

原科会長

議事録を公開するか否かは、今回はここで決めなくて、自動公開でいいのではないですか。原則、公開というルールで。どうでしょうか。

高梨環境課長

皆様に確認していただいた後に町ホームページにて公開をさせていただきたいと思いません。

原科会長

もちろん中身は確認しますが、公開が原則で。最近、情報公開が日本は遅れてきています。色々問題がおこっておりますので、葉山町ではそういう問題をおこさないようにしましょう。

高梨環境課長

では、議事録につきましては作成後、委員の皆様にご確認いただいた後に、町ホームページで公開させて頂きたいと思いません。あと、本日傍聴を希望されている方がいらしておりますので、入室していただきたいと思いません。

(傍聴者入室)

それでは環境審議会への諮問を行います。山梨町長から会長へ諮問書をお願い致します。

(山梨町長から原科会長へ諮問書の読み上げ→受け渡し)

山梨町長

よろしくお願い致します。

原科会長

諮問を受けましたので、これから審議して参ります。

高梨環境課長

ありがとうございました。山梨町長ですがこのあと公務がございますので、会議の途中になると思いますが退席させていただきますのでご承知おきくださいますようお願い致します。それでは、これ以降につきましては会長に議事の進行をお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

原科会長

承知いたしました。それでは始めましょう。議題(2)葉山町環境基本計画の改定について審議を進めてまいります。先ほど山梨町長のお話がありましたように、地球温暖化の進行は思ったより早く深刻な感じがします。これは産業面で特に影響するだけではなく、地域の防災面でも同様です。私は千葉商科大学におりますが、昨年は千葉で台風15号・19号・集中豪雨と大変でした。これはコースが少しずれると他の地域でも同じようなことが起こります。考えてみると昨年だけではなく、一昨年は西日本ですね。ですから日本はあちこちでちょっとした違いでそういうことが起こります。多くの研究者の議論、シミュレーションの結果などもありますが、温暖化の進行によって特に海水の表面温度が上がって、色んな気候変動が出てきた。これがどうも顕著であるということですね。気候変動、温暖化の原因は人為的なものの寄与はあまり大きくないという意見もありました。ただ、この10年程のデータの蓄積で人為的な影響は大きいとの判断が説得的です。

特に去年、IPCCから強烈な報告がありました。急激な気候変動は色々な自然災害を起こすということです。最近NHKでも放送していました。激甚な気象災害です。これは災害とともに産業、漁業や農業にも影響を及ぼすのでしっかり対応しなければならないということです。そういう意味では、環境基本計画は総合的な対策につながるものです。地域のありかた、経済・産業・生活。そう意味でも大変重要な意味があると思います。ということで、是非いい計画を作りたいと思っております。そのためには町民の皆さまと協力して一緒にやっついていかないとけません。計画を作るところから協力しないと実行でも協力できませんから、そういう考え方で進めて参ります。そこで、まず環境基本計画についてインプット

が必要です。計画の改定について事務局側で資料を用意して頂いているので、まずご説明を頂いたうえで議論を進めたいと思います。では事務局お願い致します。

小野主任

それでは私の方からお話させていただきたいと思います。お配りした資料①、②と参考資料①～③を使ってお話させていただきます。まず最初に配布した資料①をご覧ください。来年度4月～3月の1年間、先ほど諮問させていただいた計画改定のスケジュールとなります。計画作成・審議会運営の二つで分けています。下の審議会運営ですが来年度4回を想定しています。開催時期について時期が前後する可能性はありますが、この中で計画の方向性であったり内容・構成等についてご審議いただきたいと思います。そちらと並行する形で、事務局の方で、計画の作成作業に当たらせていただきます。後ほどお話させていただきますが、今回住民の方からの意見の収集の手段としてワークショップの開催を年度当初に予定しております。こちらの結果と審議会のみなさまからのご意見を踏まえて計画の作成に当たりたいと考えています。この来年1年を経て、2021年4月から新計画のスタートと言う形になります。続いて、資料②をご覧ください。環境基本計画の改定についてという資料です。

(資料②・参考資料①～③を用いて環境基本計画の改定について説明)

長くはなりませんが、説明は以上とさせていただきます。

原科会長

これだけありますので、説明に時間がかかるのはやむをえないですね。今の計画は、その前の計画の改訂版ですが、私もコミットしましたので色々反省しないといけません。環境基本計画（改定版）の57ページに記載されているメンバーでやりました。会長が私で、副会長はIGES（アイジェス）の小林さん、こういった皆さんと作りました。今のお話で、確かにコミュニケーションという点はまだまだですが、中身はそんなに変えない方がいいですね。先ほど誤解があると思いますが、これが分厚いには2つ理由があって、現況に対する解析に22ページ使っている。資料も20ページある。本文の結果報告は23ページ。ということは京都のものとあまり変わらないのです。ですので、長さ自体はそんなに差がない。むしろ京都の方が多角的に書いているので少し読みづらいかもしれません。その辺は工夫した方がいい。中身に大きな問題は、私はないと感じます。

それから10年間を振り返って次の計画を考えるわけですから、2011年時点での状況と、現在2020年の状況とでどれだけ変化があったか、改善があったのか、無かったのか。きっちり資料として用意しないとイケないですね。その意味では資料が昔のものがあまり出ていないと、変化がわかりにくいです。一つ見て分かりやすかったのがアライグマ・タイワン

リスですね。この計画を作ったときはアライグマ・タイワンリスの数が増えて問題だったのです。「葉山町環境基本計画（改訂版）」の15ページです。この時はアライグマ・タイワンリス合わせて1000匹を超えていました。これが、色々対策を講じてその結果6~7年たった段階で「葉山の環境」の6ページにあります。当時の3分の1まで減っているのです。自然環境に対して、ある部分は改善があったということを見ながら計画は作らないといけません。

それから今、国の環境基本計画の考えでは、特にSDGsはキーワードですから、これは今回、中身として取り扱わないといけません。それから、地球温暖化、パリ協定の問題です。この2点は小野さんが言ったとおり大事なポイントなので、それを上手く加えてこれまでの物を継承しつつ新しいものを展開できればと思います。そんなことが大事だと思ったので、本日は2つ資料を用意いたしました。

1つは、千葉商科大学の「SDGs 行動憲章」というものです。ご覧ください。実は、本学は日本に780ほどある大学の中で、第1号で「SDGs 行動憲章」を作り、メディアでも紹介されました。葉山町も一番で「SDGs 行動憲章」を作るくらいのことです。千葉商科大学ではSDGs達成に向け、1.組織統治、2.教育・研究、3.人権、4.環境・エネルギー、5.防災・地域発展としました。SDGs（持続可能な開発目標＝Sustainable Development Goals）はロゴに示された17目標という大変幅広い範囲ですが、包括的に見て千葉商科大学では、1.組織統治、2.教育・研究、3.人権、4.環境・エネルギー、5.防災・地域発展の5つに整理しました。葉山町は教育機関とは違いますので、また違う基礎自治体としての役割もありますから、これまで行政としてやってこられたことを検証して整理して頂ければいいと思います。私どもの例としては、1.組織統治ではESG投資。これは上智大学に続いて2番目ですが、本学は日本の株式対象にやっております、リスクが大きいですが支援をしたいというマインドでやっています。2.教育・研究、これは本学の教育の方針をきちっと整理して、さらに先に進めていくということです。3.人権、学生教職員それぞれの人権を尊重し、多様性をしっかり捉える。4.環境・エネルギー、これは産業との関係がとても大きいと思っておりますので、環境エネルギーに力をいれておりました、「自然エネルギー100%大学」を日本で初めてやりました。温暖化防止のために必要なことですが、日本は幸運なことに自然エネルギーが豊富で世界でもトップクラスのポテンシャルがありますので、日本国内の内需が拡大して経済が発展するという大きなメリットがあります。これからの経済成長戦略です。そういうとらえ方をしています。5.防災・地域発展、これも今につながります。ある部分は葉山町にも共通すると思います。本学の行動憲章がSDGsに関する具体例としてあります。

もう一つは、地球温暖化防止としてパリ協定。これは、我々は色んな主体が再生可能エネルギーを積極的に使って再生可能エネルギー100%に変えていかないとはいけません。ということで、これは実践活動です。これも日本の大学で初めてです。自然エネルギー100%達成しました。ただし、これは電力に関してです。これは世界では今220社

らの大きな企業が「RE100」を国際的なネットワークでやっています。これは大企業にターゲットを絞ってです。直近では日本は楽天が加わったので 30 企業になりました。日本が 30 なのは遅れているという見方もありますが、世界中で 220 なのですから、30 なら悪くないという感じもあります。両面の見方がありますよね。もっと日本の場合は進んでいてもいいとは思いますが。これは大きな企業についてだけです。

社会全体については通常の「RE100」だけではダメです。色々な主体、つまり中小企業・基礎自治体・大学も色々な組織それぞれが自らの問題として捉えれば、これは SDGs のゴール 12 番、つかう責任、つくる責任。「電気を使うからには作る方の責任も取りましょう」という考えに立てば、日本中で再生可能エネルギーが広がっていくでしょう。その考え方でファーストペンギンとして千葉商科大が自前で再エネ発電して、しかも、それを買い戻して「使う方も 100%、作る方も 100%」を達成しました。そんなことが評価されて、昨年 12 月に「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受けました。これにはさらに続きがありまして、経済産業省も評価してくれました。1 月 29 日に省エネ大賞の審査委員会特別賞をくれます。単に省エネだけではなく、エネルギーも作っているということでより包括的アクションとして評価してくれました。1 月 10 日には国際的な賞ももらいました。環境教育という点で「Green University of the Year」でチャンピオンになりました。

成果を出せば、このように色々良いことがあります。これは本学の例ですが、是非、葉山町もそういう評価がされるような積極的な活動をやってください。葉山町は環境が素晴らしいというイメージを多くの方が持っているので、それに値することをやって頂きたい。環境基本計画をしっかり作って運用する。日本のどこもやって来なかったことを是非やって頂きたいですね。今、小野さんが、コミュニケーションが大事だとポイントを絞った表現をしてくれました。町民と行政のコミュニケーションをしっかりやるような枠組みを新しく作ると、日本は遅れているので新しい展開になります。そういうのを是非お願いしたいと思います。葉山町は色々工夫していて、特にごみの問題では成果を上げています。本日の資料でも、確実に良くなっていますね。そういう良い点をさらに色々広げて頂きたい。10 年を経て、また新しく計画を作るので、次の段階の展開をしたいと思います。少し長くなりましたが、以上です。では、順にご意見を頂きたいと思います。

なお、ワークショップを 5 月前後に予定されていますが、大体どのくらいのタイミングを考えていらっしゃるでしょうか？

小野主任

年度当初という話をさせていただきましたが、子供たちも積極的に巻き込んでやっていこうと考えていて、子供たちが学校を離れて時間が自由になる夏休みなどでもいいのではと個人的には思っております。

原科会長

では、5月くらいから準備して、実際は7月くらいにやると。

小野主任

そうですね、実際子供たちを招いてやるとなると、その位の時期になると思います。

原科会長

2〜3回となるとそれなりの費用が掛かりますね。その辺はどのようになっていますか。

小野主任

今回はなるべくお金をかけずに考えております。

三井委員

今回主体はどこがやるのですか。環境課がやるのでしょうか。環境フェスタなどとの連携ではなく、あくまで環境課独自でやるということでしょうか。

小野主任

あくまで主体は環境審議会の事務局である環境課が主体となると考えております。

雨宮課長補佐

色々細かいことまで実際はまだ決まっておりませんが、大人と子供とそれぞれワークショップをやってもいいなと思ってはいるのですが、大人の部分はこの審議会が担っていただいてもいいかなと若干ありまして、例えば中学生の会が結構盛り上がり面白いとそちらに重点を置いてもいいと思いますし、その辺は今作戦を練っている部分になりますので、次回の審議会にはイメージをお伝え出来ればと思っております。

原科会長

この審議会が大人の部分というのでは良くないのでは。みんなでやった感がないという意見が出てきたでしょう。もちろんここでもワークショップをやりますが、町民のみなさんと上手くコミュニケーションをとらないとまずいのではないのでしょうか。

高階環境部長

大人の部分につきましては、町内28か所に分かれる町内会自治会が連合体を組んで町内会連合会というのが組織として組まれています。ここ近年、町内会連合会の方々が各部会に分かれて様々な分野についてご検討いただいているご意見を頂くという機会も設けられております。その中に環境部会というのが1つございまして、地元のお住いの皆さまからの意

見を抽出した内容が話されていることが大変多くありますので、こういった方々にもワークショップの一つを担ってもらうのもありなのかなと思っておりまして、まだ検討はしていきたいと思っております。まだ先方にはお声がけもしておりません。

原科会長

それはせっかくなのでやった方がいいですね。大人と子供が一緒に親子ワークショップとかでもいいのではないのでしょうか。昔、屋久島で我々は、親子ワークショップをやりました。その時は子供の意見を反映させたのが良かったという結果が出ています。

錦澤委員

ご説明ありがとうございました。基本的な方針としてボリュームを抑えてコンパクト化するということで、京都市の例をあげていただきました。私もコンパクト化して読みやすくするのは賛同致します。それから、京都市方式で最初に皆さんで1枚考え方を盛り込んだ絵を入れるというのも参考になるかなと思いました。葉山らしさをうまく出してこういうものを最初に入れるといいと思います。今話が出ていた策定の仕方の中で、環境基本計画ですから町民全体の色々な方々に理解していただいて、アイデアを寄せてみんなで作っていくことが大事になるわけですが、そういう意味では小中学生の子供たちを入れるのはいいアイデアだと思いますし、一方で大人の中でも働き盛りの方々の意見も必要だと思います。公募形式でやるとややご高齢で、時間に余裕のある方ばかりが集まる傾向があるので、そこは工夫をして公募などの形では無くて、先ほど部長さんからありましたような28の自治会の中の、皆さんから集まっていたいて議論できるような、全町的な形で人を集められるような参加者の集め方を少し最初考えて声掛けなどして集めることが必要だと思います。

原科会長

ある程度、公募の方も必要だと思います。両方必要ですね。

小野主任

意見収集の手段としてワークショップは1つの手段だと思います。他にも何かやり方があればお考え、ご意見があればお聞きしたいと思います。ここには書きませんでした、アンケートをやっている自治体もあります。

錦澤委員

以前、原科先生が主導して関わって沼津市の環境基本計画をやったときは、無作為抽出のアンケート調査をやることもありまして、色々環境に関する意識を町民のみなさんから吸い上げるという方法なのですが、それとからめて実際の会合に参加して頂けませんかと、そ

これから人を集めると比較的公募でやるよりもアンケートの意見だけではなく、色々な世代の方が会合に参加して頂けるという無作為抽出の会合なども最近よくやられています。

原科会長

このイメージ、分かりますでしょうか。討議型社会調査のようなものですかね。私は1970年代の終わり頃に山形でやりました。参加研究の先駆けです。意見の分布をフィードバックして討議する。アンケートをその場でやって、フィードバックして議論を深めていくと、だんだん意見が動くのですね。その時、情報が十分に提供され、メンバーの多様性が高いと、意見が建設的な方向に動くとか、そういう成果が得られました。ワークショップの準備は結構大変です。これをしっかりやらないといけません。それから、「こういう事が始まる」ということを町民の方に早めに知らせていかないとダメです。まさに積極的なコミュニケーション戦略です。葉山町のホームページをのぞいたら、「環境」というキーワードが中々見えないです。ごみや資源化は出ているけど、「環境」という言葉が出てこないのです。山梨町長、何とか入れてください。「環境基本計画を改定します、町民の方のご意見を伺いたい」などをトップに出しておかないと。そういうアクションが始まったと早めに伝えておけば、皆さんから意見が出やすいです。

(山梨町長退席)

原科会長

次に、コンパクトで分かりやすく、みんなで作る、これら3点はおっしゃる通りだと思います。中身どうでしょう。京都の基本計画を作った内藤正明先生は、私が国立公害研究所（現・国立環境研究所）にいた時の上司で、よく存じ上げています。だから、方向としては私も似たような方向を考えております。ただ、実際どうやって実行するかが問題です。京都市でも、実際はなかなか実行に移らないと内藤先生も言っておられたので、葉山町は実行をしっかりやってもらいたいですね。

三井委員

ワークショップをやって町民から意見を吸い上げて、たたき台にしますよね。それと前回の改定版があって、我々は細かいことに対しての注文はいつ頃からしていくものですか。例えば先ほど出た話で、アライグマ・タイワンリスが下降に行ったところで急にイノシシが出ているなどがこの10年で変わるとか、そういう具体的な意見したいところなどは2回目以降の審議会でやるのですか。

小野主任

次回の3月の審議会で、先ほどの「はやまの環境」の最新の30年実績の取りまとめた報

告と、それに合わせて、ワークショップの詳細についてのお話、もし時間があれば新計画に掲載する、資料②の5ページに記載した1番・2番の計画の位置づけ方向性ですとか、課題・現状などはその段階でも話ができるかと思しますので、お時間があればこちらのお話までできればなと思っております。

原科会長

早めこういう事を議論しないといけないですね。SDGsのキーワードをどこに入れるのかとかですね。

内山委員

今のご質問に類似しておりますが、資料②の2ページの現行計画の総括の基本目標2のところは各論になる部分だと思いますが、大気汚染に関しては今比較的話題性が無いように見えるのですが、恐らく今年から問題化していくものでアスベストがあります。葉山町さんは私どもの経験で町民の方からのお問い合わせが一番多いのがアスベストです。これから各個人のお宅が解体の際に届け出が義務化されていくようになるのですが、まだ法律がどのくらいの大きさが対象になるか分からないので、よくお問い合わせがあるのは、「隣の家を壊しているのだけど、アスベスト使っていないのでしょうか。」というお問い合わせなのです。これって実はコミュニケーションの問題で、お互いに隣同士が話していれば分かるのですが、壊すときに話さないで壊すからお隣さんが不安になるのです。ですので、私たちは「できればお話し合い下さい」と言うことを申し上げるのです。こういう計画の中に今後の問題としてこれからお家がどんどん解体されていくと1つ広がっていくので、1つのキーワードとしてアスベストという単語をどこかに入れてもいいのかなと思います。

原科会長

とても大事なことをおっしゃって頂きました。簡単なものでもきちんとコミュニケーションをとる。そこに、前から私が言っている簡易アセスが加わったらいいのですよ。まさにおっしゃる通りです。みんな気楽にコミュニケーションをとりやすい場を作る、そこにアセスメント。大きなものではなく簡単なもので、是非、今おっしゃって下さったものを入れてください。これだけに関わらず色々なアクションに対して、事前に周りにお話しする。これなのです。その時に、場合によっては行政の人が少し関わって頂くと揉めないで済むとかなります。大事なことです。家屋の解体作業に関しては、簡易なアセスをして、コミュニケーションをしっかりとするという仕組みを是非考えてほしいですね。解体時のアスベストだけではなく、一般論として。他にいかがでしょうか。自然のことはどうでしょうか。人と自然が豊かにふれられる健全な自然環境保全。葉山の場合はあまり大きな変化がないと考えていいのかな。三井委員どうでしょうか。

三井委員

これはすでにうたわれている通り、ボランティアをやる人はいるけど高齢化。若手の私が60歳です。

原科委員

どうしたら維持管理はできるのでしょうか。

三井委員

大体のことは書かれていると思うのですが、新しいことがこの10年で色々出ていて、各論になった頃にしつこく言おうと思います。

原科委員

では、各論で考えます。タイワンリスが減ったのはどういう要因だと思いますか。

三井委員

私がハッキリ思うのは、木を倒すほどの大雪が4、5年前に降りました。あの時にタイワンリスが大量に山の中で死んでいるのですね。リスは木の中で巣を作って冬は保温して生きているのですが、大雪で木が倒れちゃって落っこちてリスが死んだのですね。その死んだリスをフクロウが食べちゃうという循環が出来ていたのです。あの時に目に見えて減ったと思います。今はあまり捕る人も一時より減って実際はまだいるけど捕っていないということです。捕っていた私がリスからアライグマに変わり、今はイノシシですから。

原科会長

アライグマはどうですか。

雨宮課長補佐

環境課に15年おりますが、アライグマは当初の頃に比べると減ったと思います。以前は年に2・3度ほど職員がアライグマを直接捕まえに行くことあったのですが、ここ数年ほとんどやっていないので、捕獲の成果はある程度は出ているのだろうと認識しております。

原科会長

あと、それではイノシシ問題ですね。また、自然エネルギーに温暖化というキーワードをしっかりと入れたほうがいいのか。それと廃プラスチック問題。

錦澤委員

資料②の5ページに新計画の構成内容というのがありますけれども、今回5つ目標・施策

がありまして、1つ目がエネルギー温暖化ということで、世界的な気候変動を受けて1つ目にエネルギー温暖化の問題が上がってきたと思うのですが、エネルギーは再エネを導入するというのが1番よくやられる事かと思いますが、葉山では土地の価格か何かの問題で、そんなに再エネがどんどん民間ベースで進んでいる事でもないので、なかなか難しいかなという気がしています。例えば最近よく「シェアリング」などという言葉が使われていて、少し違いますが、葉山でも「譲ります・譲ってください」というのをずっとやられていますね。物をリユースするということです。消費をどんどん進めるのではなくて、使えるものはシェアして使っていくとか。例えば葉山の場合ですと、公共交通があまり発達していないので、バスとか自家用自動車などよく使われますので、「シェアリング」という用語が入っていいのではないかということです。

原科会長

「シェアリング」というと通常は資源とかごみとか、こっちのほうに入るかもしれません。しかし、カーシェアリングだと、エネルギー問題ですね。

錦澤委員

あと、気候変動適応は気象災害が特に関係してくると思いますが、例えば土砂災害など里山の整備が葉山では非常に大変重要になってきているのではと思いますが、里山の整備で私の思いつきかもしれませんが、森林整備をして出てきた木を使って良質な薪を作って売るとか、何か葉山らしさというものと関連付けて気候変動適応について考えられるといいかなと思います。

原科委員

前の計画との連動性もあった方がいいので。環境情報の収集はどうでしょう。10年間の変化を見るには分かりにくいところありますね。

加藤委員

今朝の神奈川新聞で、南足柄市は用水路が多くて個別の水路を使って電気を起こしているエネルギーと見ました。葉山は難しいと思いますが。色々視察にも行きましたが、風力は風切り音がうるさくて、無理だと思います。これからの電力エネルギーについて葉山も何か提案をしていかないといけないのかなと思っております。

原科会長

葉山は地形が急峻だから、上に水を溜められれば小水力できるかもしれませんね。

三井委員

二子山の東の外れ逗子の方でメガソーラーが出来らしいです。

原科会長

それは、どういう場所ですか。耕作放棄地ですか。それとも、山を切り開いてですか。

三井委員

完全に二子山の東北に向かった斜面です。高速の横です。

原科会長

私は、メガソーラーは必要だと思いますが、立地が重要です。日本は耕作放棄地がものすごく沢山あり、そこなら、森林に影響がない。余っていてもったいない土地の有効利用になる。山を切り崩す必要は全くないと思います。

三井委員

大規模工事が入るようです。

原科会長

耕作放棄地を有効利用する。あるいは、農業とソーラーシェアすることもできます。まさに色々なアセスメントにより、情報公開をしてチェックしていけば、変なことが起こりにくくなる。日本はアセスメントが特別に遅れているのです。現在は歪んだアセスになっていますからアセスがあまり有効でない。一部の大規模開発だけを対象としたアセスですから。そうではなく、アセスを幅広く行う。コミュニケーションが大事なのです。とにかく、基本計画を作っていくことを町民の皆さんに上手く伝えることを早めにやって頂きたい。それが大事だと思います。そのために、何かイベントを1つくらい考えてもいいのではないですか。ワークショップをやる前段階のイベントを考えても良いかもしれませんね。夏休みにやるのであれば、5月か6月あたりに前触れイベントをやるとか。

三井委員

次回の環境フェスタで大人のワークショップを1つやるのはどうでしょうか。次年度の予定はどうなっていますか。

雨宮環境補佐

次年度の予定はありません。

原科会長

早めにやってはどうですか。6月は環境週間なので。是非それをやったらどうでしょうか。

6月頭に環境フェスタをやってそこで環境基本計画を準備してやっていますと。7月に親子ワークショップをやっていくとか。そうすればどんどん伝わっていきますね。

加藤委員

植木の剪定についてですが、週1度搬入をしてかなり多くの量ができます。余談ですが追浜に剪定木を持ち込んで、電気エネルギーに変えるバイオマス発電があります。あれなんかも1つどうですか。

雨宮課長補佐

すでに葉山町の剪定木についてですが、収集も事業系の物もすでに山梨の方でチップになって、堆肥になるものとバイオマス発電になるものとに分け、山梨のバイオマス発電施設に供給されております。

錦澤委員

1ついいでしょうか。メガソーラーの話が気になります。葉山は土地がすごく高いのであまりできないと聞いていたのですが、逆に山林開発で商用として成り立つとなるとこれからどんどん進んでいくという可能性もありますよね。また、規模にもよりますが比較的メガソーラーでも規模の小さいものになりますと、あまり環境関連の制度の対象になってこない。規模が小さいメガソーラーですと、例えば不動産業者とか再エネ業者ではないところが開発して、非常に施工が良くない状況で建てられて土砂災害・土砂流出などにつながる。少し注意する必要があります。そう意味では小水力は農家との調整が一番ネックになりますが、環境影響というものはかなり小さいので、出来るのであれば非常にいいかなと思います。

三井委員

葉山は水量 ON・OFF がすごくありまして、2月・8月の渇水期は本当にありませんし台風くると、どかんと破壊されるということが繰り返されています。

錦澤委員

ソーラーは原科先生がおっしゃったとおり、ソーラーシェアリングで農地を使うという方法もあります。先日山梨に見に行ったのは、ブドウのピオーネとシェアリングするというものがよくて、棚のようなものを作って、棚にブドウを植え付けて、ピオーネとか高いブドウは日射の温度を少し下げたほうが良いようで、両方が Win-Win の関係で良いようです。

原科会長

実は、千葉商科大ではそれもやっております。学生が盛り上がってやっています。山梨の

一流メーカーの支援も受けてワインづくり。色々な事を皆で考えると楽しいことが出てくる。その上で、メガソーラーの変なものに対しては、ノーといえるようになる。皆が理解すれば。メガソーラーだって適地があるのです。何も山を切り開かなくてもいいのです。現在のアセスの仕組みがおかしいのです。開発者はアセス抜きで手の付けやすいところからやっているから変なことが起こります。

では、進め方を決めますか。6月の頭頃の環境週間を狙ってイベントはやりませんか。町民と一緒に。

雨宮課長補佐

予算を特に持っているわけではないので、やるとすると確実に手作りになります。環境課がやるイベントがいくつかありまして、人気のあるものに「くるくる市」というのがあります。そこをうまく活用して、オープニングでやるなど少し考えさせていただければと思います。

原科会長

「くるくる市」は6月にやれそうですか。

雨宮環境補佐

時期も含めて検討させていただければと思います

原科会長

では、5月末か6月頭にイベントをやるのは決まりで。その狙いはワークショップをやるってことと、環境基本計画を作っているということをしっかり伝えて、この10年間どんな成果があったかを理解してもらい、何がこれから問題かについて普及啓発するためです。それと、次のワークショップの参加への協力、人集めですね。ワーキンググループなども作った方がいいのでしょうか。審議会だけだと回数が足りないですね。

加藤委員

先程の町内会の環境部会なども上手く使った方がいいと思います。小さい葉山でも海側と山側では環境の考え方が違います。政策課とすり合わせをして、うまく環境部会を使った方が広範囲に意見を聞けるのかなと思います。

雨宮課長補佐

本日は色々な意見、アイデアを頂きました。事務局の方で具体的な事務局案をまとめて次の環境審議会で進めていきたいと思います。今どうこうというのは難しいと思いますの

で。原則、予算を持っていませんので、その中で出来るもの・出来ないものを整理していきたいと思います。ただ、先ほど原科先生がおっしゃったとおり、環境基本計画を改定することは前面に出していった方がいいと思いますので、現行の環境基本計画があつて、前の環境と今の環境がどう変わっていったのかをみなさんにお知らせをして計画の策定を進めていくのがいいと思いますので、その辺も含めて検討させていただければと思います。

原科会長

審議会とは別にワーキンググループも作った方がいいと思いますが、どうでしょうか。審議会のメンバー何人かと、ボランティアや先ほどの町内会など、町民の代表何人かと。

小野主任

他市町村の計画でもそうですが、審議会とは別に検討部会のようなものを設けて、色んな手段や組織を作ったうえで検討していくというのは計画の策定の仕方としては有効かと思っています。

原科会長

通常はそういう格好になると思うのですが。ワーキンググループを作るということでもいいでしょうか。例えば加藤委員と錦澤委員など、このメンバー数名と町民5~6人の計10人程度で。やるといいのですが。

小野主任

審議会のようなかつちりした場だけではなく場所を移してでもお話し合いはできると思います。ただ今回予算がないもので、考えさせていただければと思います。

雨宮課長補佐

先程あったように、海水温が上がってわかめが取れないなどの情報は知らない人が大勢いると思います。10年前と今では実際に海で働かれていたり、山で活動されている方は全然違うということを感じられていると思います。そういう事を伝達し、みんなで共有しながら議論すべきだと思います。そのようなことを考えながら検討させていただきたいので、ご無理をお願いするかもしれませんがご協力いただければと思います。

原科会長

激甚な気象災害は房総半島の方はすごかったです。ただ、千葉商科大学のある市川は少しズレたんですね。20~30キロ、西にずれていたら、私たちの場所も酷いことになっていたはずです。そういう事を町民のみなさんに理解して危機感を持ってもらわないといけない。他人事ではない状況です。

角田委員

先程加藤委員が言われた通り、町内会連合会というものがあまして、4組ほどで別の行動で海・山と共同で政策課がやっていますので、取り込んでいただかないと成り立たないと思います。いい意見をもっていますので、是非取り入れ下さい。

原科会長

色々議論してまいりましたが、他にいかがでしょうか。海の方、漁業の関係は本当に深刻ですね。

角田委員

海は磯焼けをしまして、ウニの増殖関係もあると思いますが、海水が高いのが影響しているのではとっております。良い藻も生えないので、海全体が良くないです。貝類も育たないです。どうしたらいいかと考えても、自然環境には勝てないので、放流などもやっていますが、全然育たないのですね。その辺が問題かと思えます。あとはプラスチックごみが多くなってきていますので、そのへんも温暖化とは別に対策が必要かと思えます。

原科会長

温暖化とプラスチックの問題は大きいですね。農業の方はどうでしょうか。

石井委員

自然災害には勝てないということでしょうが、今年の台風15号で大根など風で全部飛ばされました。畑は環境づくりというより、自分で作るものなので去年はどうしようもなかったということですね。

原科会長

温暖化に対しては、社会全体が変わらないといけないので、葉山町だけというより、葉山町が動くことにより他にもどんどん広げていって日本全体が変われば・・・というそういうアピールが大事です。他も一緒にどんどんやっていく。そうすると変わっていく可能性がある。

石井委員

気温が高いというのは先日葉山町の農作物品評会があったのですが、甘夏とか夏ミカンなど、果物はなっているが色が付かない。今年は出展数も例年に比べ少なかったです。出展数を確保するために、野菜の会の人たちがネギなどを作って確保したくらいです。

原科会長

色々影響が出ていますね。そのような具体的な問題を個別に出してもらうためにワーキンググループを作って詰めてもらいましょう。そのための仕組み作りをしっかりとやっていきましょう。次回3月の時にワーキンググループの構成を決めてスタートできたらいいですね。そんな日程でどうでしょうか。

小野主任

今回の会議で葉山の環境の話と、ワークショップとイベントの詳細。限られたお金と時間の中でどのように効率よく運営してくのか、日時ですとか期間まで決められたらいいですが、内容・テーマ・手法などこちらから用意できるものは用意させていただきたいと思います。それに対してご意見があればいただければと思います。あと、時間があれば新計画に掲載する計画の位置づけであったり、葉山の環境の現状・課題等を話し合えればと思います。

原科会長

計画の位置づけとはどのように考えていますか。環境基本計画は総合計画の下に位置づけるのですか。

小野主任

基本的にはそうなると思います。

原科会長

それが、上手くいかない大原因なのです。

雨宮課長補佐

総合計画は行政のトップにあります。その下に部門計画がぶら下がるのですが、環境基本計画の下にはごみ処理基本計画ですとか、緑の基本計画ですとか、その他環境に関する計画が色々連なりまして、それを取りまとめているのが環境基本計画になると思っております。

原科会長

30年以上前ですが、埼玉県のある市の環境基本計画づくりを、先程の内藤先生と一緒にやったのですが、その時に総合計画の位置づけで大分議論しまして、環境基本計画を対等な位置づけにしないとダメだと。30年前は総合計画が上で、環境基本計画がその下という関係でしたが、いまだに上下関係のままであると。対等な位置になるようにしないとイケない。形は違ったとしても実質的にそのような形にならないとあまり役に立たない。SDGsはまさに総合計画ですね。ですから総合計画の下に位置付けたとしても、実質的には対等になるようにしておかないと実行性はないのではないかなと思います。

雨宮課長補佐

我々のイメージですと、その他の部門計画とは若干上にいる、取りまとめの計画と認識しています。環境部局はいくつか部門計画を持っていますから。

原科会長

それも SDGs がキーワードですね。それも整理していただいて情報頂きましょう。
では、他に何かございませんでしょうか。

小野主任

今後ですが、資料②の 5 ページの構成案に沿ってお話し合いが出来ればと思います。次回は 1、2 の部分について話し合いが出来ればと思います。メインとしては 3、4 の理想・理念ですとか、具体的に何をしていくかということになりますが、ワークショップやイベントの結果を受けてそこは話しをしていく形になると思います。ただ、随時ご意見ですとか情報があればその都度頂けたら大変助かります。あと事務局からのお願いですが、参考資料 2 「葉山町の環境基本計画」ですが、次回以降持参していただくと大変助かります。

原科会長

他はいいですか。「葉山の環境」は次回新しいものになりますか。

雨宮課長補佐

今回は更新します。

小野主任

皆様、貴重なご意見ありがとうございました。次回の日程を決めさせていただきます。第 3 回ですが、3 月 23 日月曜日もしくは 24 日火曜日の午後、ご都合のよい日程を考えております。ご都合はよろしいでしょうか。

原科会長

相馬さんの予定もありますから伺ってください。皆様、3 月 23 日か 24 日の午後で調整をお願いします。

では、これで第 2 回環境審議会を終わります。ありがとうございました。